

ブドウ中毒

Grape-Raisin Syndrome

人間にとって害のないぶどうあるいはレーズンが、犬や猫にとっては時に有害物質となることがあります。報告による中毒量は体重1kg当たり10～30gです。今のところブドウ自体に問題があるのか付着物などに問題があるのか不明ですが、小型犬であれば少量でも中毒を起こす可能性があるので与えないほうが良いでしょう。

ただ、個人的にはこの疾患を現時点で「ぶどう中毒」と呼ぶのはちょっと疑問です。海外ではぶどう-レーズン症候群などとも呼ばれているようです。

原因

はっきりした原因はいまのところ不明ですが、可能性としては、カビが生えその毒素由来、高濃度のビタミンD3もしくは類似体、除草剤、殺虫剤・重金属・その他環境中の毒物の混入、もしくはまだ見つかっていないブドウ由来の毒素が考えられます。

どちらかと言うとレーズンのほうが危ないと言われているため、皮に含まれる成分や薬剤などが影響しているのではという意見もあります。

症状

摂取後2～3時間後に嘔吐、元気がなくなる、下痢、食欲不振、腹痛、高カルシウム血症などがみられるとされています。また、3～5日後に腎不全が発症することも徴候です。さらにこの症状は長いものでは3週間も持続し、最悪の場合は死亡します。

診断法

問診や状況等から判断するしかありません。ブドウを摂取した事実と血液検査所見などから治療を行います。

治療法

対症療法が一般的です。催吐処置、胃洗浄、活性炭の投与、点滴、利尿剤の投与が主なものとなります。腹膜透析などを行ったとする報告もありますが、おしっこが全く出ないような末期の腎不全となるとなかなか治療は難しいかもしれません。

自宅での看護法

大量摂取の場合は入院して集中治療が必要ですが、退院後は獣医師の指事にしたがってケアしてあげてください。

予防法

犬や猫にはぶどうまたはレーズンを与えないことです。今のところ

原因等が特定されていませんのでその副産物なども与えない方が良いでしょう。

もしどうしても与えるのであれば少量、皮をむいて与えることを心がけてください。



メモ

海外で10例以上の報告がありますが、私の知る限り日本での報告例はありません。ですからブドウそのものが中毒の原因というのではないのではと考えていますが、別にあげる必要もないものですからわざわざ与えることもないでしょう。

ブドウを食べて上述のような症状が出るようであれば早急に獣医師の診察を受けて対処してもらおうよう心がけてください。



[広告] ▲上記QRコードで携帯から簡単アクセス可能..